

地域ぐるみの捕獲マニュアル

箱ワナ等(餌付けワナ)の捕獲頭数を増やして 農作物被害の減少！！



被害を与える個体を集落周辺で減らす

1 地域ぐるみの捕獲体制

- 相互協力
関係者が共通の認識をもって協力し、捕獲頭数の増加を目指す。
- 情報共有
地域内の有害捕獲に係る情報を共有する。
- 役割分担
役割を分担して一人一人の負担を減らし、協力して捕獲を行う。
- 法令遵守
捕獲に係る法令等を遵守する。

2 箱ワナ等の設置場所の選定

point

- * 人も車も動きやすい広さの場所
- * 動物が頻繁に出てくる場所



- 設置の作業や捕獲後の処分が容易な広さと、給餌や見廻り等の日常の管理が容易な場所。
- 食害の状況や足跡、糞等の痕跡から確実に動物が出てくる場所。
- 誘引に使うエサと同じモノを使って、出没状況を確認する。
- 経済性、嗜好性等を考慮して、何種類かのエサを比較するのも、良い。

3 箱ワナ等の設置

point

* まだ、作動させない！ * 情報共有と協同作業

- 設置作業には地域の農家等も参加し、設置場所の情報を共有。
- 動物には誘引用のエサだけを食べさせるために、周辺農地の防除対策(防除柵、残渣の排除等)を徹底する。

4 日常管理

point

* 複数体制で負担の軽減

- 見廻り、給餌等の日常的管理は関係者が交替で行い、無理なく毎日行う。
- 日常の管理は、誰もが同じ方法で行う。
- 新鮮なエサを毎日与える。
- 動物が安心して食べられる環境を整える。



5 給餌(=誘引)

point

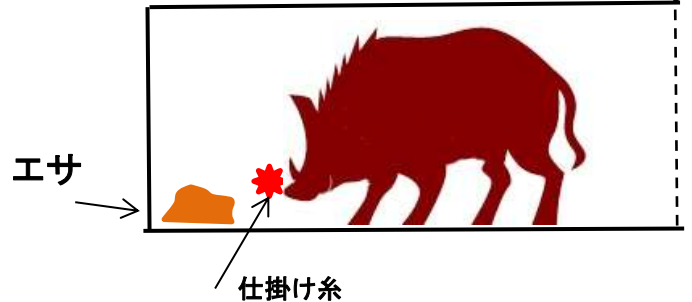
* まだ、作動させない！ * 作業を分担して負担の軽減
* ワナに対する「警戒心」を解く努力
* 動物を安心させ、ワナのエサだけを食べさせる！
* 安心して食べきる量の新鮮なエサを、毎日提供！

- 給餌の負担を分担できるように、協力し合う。
- 扉は『ロック』した状態を保ちながら、仕掛けは常に「正しくセット」しておく。
- ワナの奥のエサを完食するまでは、「仕掛け」に触れても扉が落ちない状態で、誘引を続ける。

- エサはやや離れた場所から置き始める。一カ所に、ひと握り程度。
- エサの置き場所は、動物をワナに近づけるように、食べ方を見ながら、離れた場所から徐々にワナに近づけていく。
- ワナの外に多量のエサを置かない。→ 外のエサで満足すると、ワナの中まで入らない。
- ワナの奥まで入るようになったら、ワナの外にエサを置かない。→ワナの外で食べられるなら、ワナの中へ入る必要がない。
- 与えるエサは、経済性、嗜好性、確保の容易さ等を考慮して選択する。

6 捕獲の実行

point



* 法令遵守

* ワナの奥まで入るようになって、初めて「ロック」をはずす

- 扉、仕掛け、ストッパー等の各部分が正常に作動するように、チェックする。
- エサは、ワナの奥にだけ置いて、侵入を待つ。

7 捕獲動物の処分

point



* 法令遵守

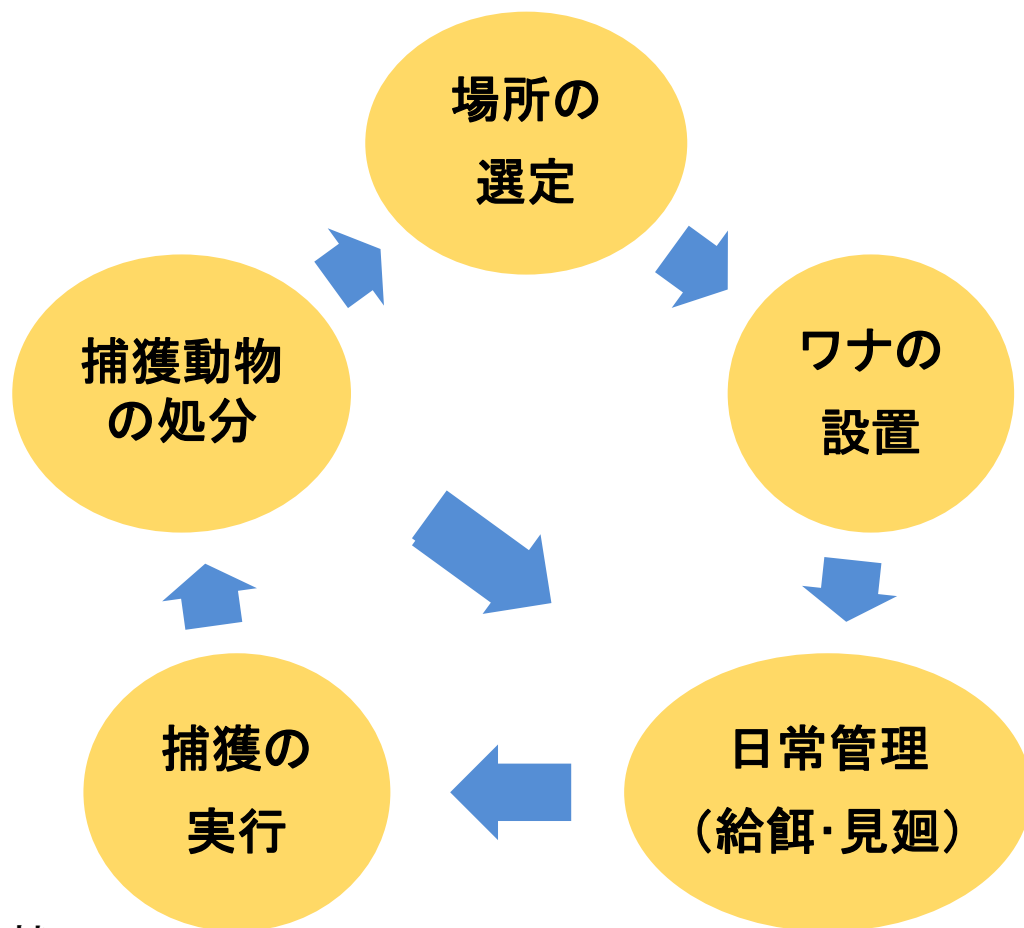
* 安全性の確保に十分配慮し、複数で対処する

- 捕獲できたら、法令に従うと共に地域の状況に応じて、埋設等を行う。
- 一連の作業は、安全を確保しながら、複数で行う。

8 地域ぐるみの捕獲の循環

point

- * 「日常管理」から「捕獲」までの作業を繰り返し、継続捕獲を目指す
- * 給餌しても食べなければ、移設を考える



参考文献

- 改訂版
野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ・シカ・サル（実践編）
鳥獣被害対策基盤支援委員会 農林水産省生産局 監修（2014）
- イノシシを捕る ーワナのかけ方から肉の販売までー
小寺祐二編著 社団法人 農山漁村文化協会（2011）
- これなら捕れる！ ワナの仕組みと仕掛け方
農山漁村文化協会編 一般社団法人 農山漁村文化協会（2015）